テル館燒失の事實を傳ふるものなれば左にこれを抄出すべし。

「……南小田原町邊去る二月二十六日火災にて燒火致し候跡道敷も改革致し、家屋も無之に付。右燒跡元ホテルの地及其續きなる……（書翰の一節）

「明治五年二月二十六日大風。未半刻和田倉御門内元會津侯邸跡當時兵部省添屋敷より出火す。焔勢東南に被り。山内侯、大藏省紙幣寮、織田侯、司法省等燒亡、又坊間へ飛火して、西紺屋町、南紺屋町、弓町、新肴町、鎗屋町、彌左衞門町、南鍋町一丁目、二丁目、瀧山町、元數寄屋町二丁目、三丁目、四丁目、京橋水谷町、金六町、銀座一丁目より四丁目迄尾張町一丁目、二丁目、同町新地、三十間堀一丁目より三丁目迄、木挽町一丁目より五丁目迄、采女町、村松町、大富町、新富町五丁目より七丁目迄、南飯田町、上柳原町、南本郷町、南小田原町一丁目より三町目迄、西本願寺、ホテル、其外燒亡に及ぶ。町數四十一町、長二十町餘。幅平均して四町程なり。夜亥刻鎭る云々」（續武江年表）（日本社會事彙）

第五章　ホテル館設計者と其の設立の事情

明治時代に於ける木造洋風建築の先驅、洋風旅館建築の嚆矢なるホテル館の設計者は前記清水家の二代喜助氏なり。氏は幼名文七文化十二年十一月越中國礪波郡井波町に生る、藤澤氏を本姓とす。二十餘歲にして江戸に來り初代清水喜助氏に從ひ大工職に從事し頭角を露し幾もなく其長女に配せられ爾來養父の事業を助け益其才能を現せしが、横濱開港に際し時勢の趨く所を洞察し行きて外人の工事を擔任し、以て日本建築に於ける構造手法に精しきに更に西洋建築術の概要を會得し爾來數々和洋折衷の計畫を試み新奇の意匠を出せり。又上野宮を初めとして井伊、鍋島及松平伯耆守の知遇を得苗字帶刀を許され清水出雲と稱す。氏の計畫に係れるものには明治四年より七年間の苦心に成れる東京兜町三井爲替會所。和洋折衷の第一銀行、駿河町三井銀行を始めとして、深川及王子の澁澤邸、深川三野村邸等あり、築地ホテル館また同氏獨特の和洋折衷の案に成れるものなりしなり。喜助氏性沈毅謙讓最も常識に富み、其の一度

企てし事は如何なる困難に遭遇するも成就せずんば止まざるの風あり、現に存する清水家横濱出張所の廻り階段の如き不屈不撓の苦心になりし好例なりと傳ふ。而して氏はまた己れの手を下せしものは其の圖面書類を問はず一切これを後世に殘さゞるを以て其の主義とし終生これを確守せりと云ふ。ホテル館建設の時日を的確に知るを得ざると其の計畫圖の存せざるとはまた實にこれに起因す。

ホテル館の設計者は前述の如くなれども、其の建設の事情に關しては今少しくこれを述ぶるの要あり。清水家傳ふる所に依れば、築地居留地の創定と共に時の幕府は茲に外國人旅館の建設と其の經營の必要を認め、其の協議成るや幕府は其建設を清水氏に托したりと、而して初め金主に吉池某なる者あり氏と共に幕府の請托を受けたるも後事情ありて遂に喜助氏の一手に歸し、苦心慘憺其の建設を畢るや旅館の經營も亦同氏に托せられ止むなく其の任に當りたりと。當時氏に旅館經營を命じたる文書今猶大藏省文庫に存するを見たり。然るに續武江年表明治四年九月の條に、「九月築地ホテル旅館廢止」とあるが如く遂に或る事情に依り廢止の已むなきに至りたり。

結論

ホテル館の建築と吾人が見聞せるホテル館の圖等に就ては以上各項に分ちて記載せるが如し。而して茲にこれを綜合して

一、ホテル館は築地居留地の一劃に建設せられたる外國人旅館にして其敷地は京橋區小田原町一丁目に在り。

一、ホテル館は其前面に木造平家を附屬とせる木造二階建瓦張の西洋建築なり。

一、ホテル館の形式は洋風なるも往々本邦建築の手法を加味したる所ありしが如し。

一、ホテル館は居留地の開設と共に慶應三年九月工を起し明治元年夏其建設を見たるものなり。

一、ホテル館は明治五年二月二十六日夜燒失せり。

一、ホテル館は清水喜助氏の設計にして其のホテルの經營もまた同人たり。

一、ホテル館は明治時代に於て東京に建設せられたる洋風建築中の古きものに屬し、其形式は明治十二三年以前の本邦に於ける洋風建築の形式に屬す。

てふ數項を述べ以て本論に筆を擱かんとす。

山口町瑠璃光寺露盤銘と塔婆の來歴

余嘗て公務を帶び山口町へ出張中其餘暇を得、且つ係員たる吉森氏の好意を以て當時修繕中なりし瑠璃光寺五重塔を見る事を得たり、塔婆は大内時代の建造に係るものと傳へられ、姿體優秀、其須彌壇は類例に乏しき圓形にして其繰形また豐麗なる曲線より成る、蓋し有數の塔婆なるべし。而して縣廳藏する所の舊藩文書あり其系譜中瑠璃光寺來歴を記せるあり、其來歴の眞疑は未だ考へずと雖も玆に摘錄して參考とす、但し露盤銘に關して當時解體取却しありし露盤に刻せるものと相對照して文書の誤れる個所は總て訂正を施したり。而して本塔婆の桝に裏書あるものを見たり嘉吉二年二月六日云々とあり、且つ本塔婆は元和年間萩に移されんとしたるを山口町民の請願により沙汰止となりしが如く、其當時の願書の寫しあり本文末尾載する所の「御願申上候事」の一札卽ち夫れにして吉森氏の好

意に依り手寫するを居たるものに屬す。

山口縣舊藩文書、系譜中所載

瑠璃光寺來歷

保寧山瑠璃光寺開闢者文明辛卯歳開基者陶筑前守弘房公法諱者瑠璃光寺殿文月道周大禪定門應仁二戊子年十一月廿四日逝去今到享保十乙巳年二百五十八年

弘房公者琳聖太子正統十世盛房公五男右田攝津守盛長十一代後胤陶尾張次郎正家續也實ハ弘正ノ弟也應仁二年大内政弘公ニ供奉シテ上洛三位ニ叙セラル京都相國寺合戰ニ討死其妻法諱花谷妙榮大姉ハ仁保三浦十三代右衞門大夫盛郷ノ女也故妙榮大姉盛郷ヨリ賜ハル處ノ一期ノ領ヲ寄附シテ一寺ヲ取建テ安養寺ト號シ其後又寺中狹隘ニシテ水木便少キヲ以テ地ヲ隣山ニ替テ文月居士生涯ノ中念ズル所ノ守リ本尊藥師如來ヲ安置シ瑠璃光寺ト改ム二男兵庫頭弘詮法諱鳳梧昌瑞大禪定門云々大永三癸未十月廿四日死云々。

瑠璃光寺來歷

保寧山瑠璃光寺開闢文明三年辛卯開基瑠璃光寺殿前筑州刺史四品文月道周大禪定門道周居士ハ琳聖太子十一世正統盛房公五男右田攝津守盛長十一代孫右田左京進貞安同弟右田彌六弘篤藝州已斐ノ城主武田一族戸坂播磨守信成ヲ討取大功ヲ盡シ其身モ其所ニ討死ス、弘篤廿四歳康正三年丁丑五月五日也大内敎弘公弘篤未タ一子無シテ功業ヲ子孫ニ不傳事無本意被思召陶筑前守盛政ノ二男三郎弘房ヲ弘篤ノ家嗣ノヤウニ被召出取領ヲ賜テ右田三郎ト號ス然處ニ寛正六年陶盛政嫡子尾張次郎弘正討死ス男子無之陶家血脈斷絶ニ依テ陶ノ末孫竝右田一家大内政弘公ヘ訴ヘ弘房ヲ陶ノ本家ヘ歸ス、弘房嫡子中務少輔弘護ヲ連テ歸リ二男兵庫頭弘詮ヲ右田ニ殘シテ右田與一郎ト號ス、後兵庫頭ト云、弘房ハ政弘公ニ供奉シテ上洛四位ニ叙ス應仁二年、戊子十二月廿四日京都相國寺合戰ニ死也、其妻法諱花谷妙榮大姉ハ仁保三浦十三代右衞門大夫盛郷ノ女也、故ニ妙榮大姉盛郷ヨリ賜ル一期ノ領ヲ寄附シテ一寺ヲ取建テ安養寺ト號ス、其後又寺

中狹隘ニシテ水木便リ少ヲ以テ地ヲ隣山ニ替テ道周居士一生ノ中祈念スル守本尊藥師如來ヲ安置シテ瑠璃光寺ト改ム（中略）

寺内ニ五重ノ寶塔アリ大内盛見公爲義弘公建立ス御當家ニ至テ修復時九輪ヲ御鑄替ヲ被仰付其臺ニ彫付記シ有之記曰、

註曰　御當家トハ毛利家卽チ當時ノ松平大膳大夫ノ家ヲ云フ

防州路吉敷郡上方山香積禪寺者名刹之伽藍而佛宗眞悟禪寺石屏和尙行導之地也。多々良姓大内左京兆盛見公始承二阿兄義弘公一嗣二萬世業一而權勢傾二海内一歸者如レ市矣故爲二先考義私公法諱佛寶尊靈一創二建佛寺一造二立堂塔一而曰二上方山香積寺一、夫寶塔者此曰二高顯一今略稱曰レ塔梵曰二蘇偸婆一此曰二寶塔一、盍立レ塔有二三意一一表二人勝一二令レ他生レ信三爲二報恩一而表二超三界一云、又佛涅槃訖後四衆取二舍利一置二七寶瓶一於二拘尸那城内四衢道中一起レ塔高十三層上有レ輪相以二衆寶一而嚴二飾之一云。高僧傳曰康僧會吳赤馬十三年至建業孫權使二舍利既得レ之權卽爲造レ塔晉帝過江更修二飾之一此蓋中國造レ塔之始也。古往今來設二佛塔一良在レ所レ侶哉福不二虛捐一矣、雖レ然如二此上方山一佛塔經二歷其星霜一者不レ知二幾百回一而梁棟傾斜柱根摧朽輪奐失二其美一上漏下濕一雨滂沱則現座多寶佛無レ可レ安二置那邊一乎呼、乎不レ勝レ舉レ目也甚概嘆而已。於レ是人王五十一代平城天皇嗣阿保親王三十七代毛利華冑松平氏大膳大夫待從大江綱廣朝臣既捨二淨財一費二力於月斧雲斤一施二功於水土山木一圖レ興復加レ修補命レ鳧氏烹二煆頑銅一造二九界輪相一億萬舊顧焉其德不二又偉一哉。寶篋印經曰以二一丸泥一塗二塔壤壁一運二一拳石一乎挾二塔礎一由二此功德一增レ福延レ壽云佛語豈レ妄乎、何況興レ廢補レ弊寶塔再轉二法輪一佛相既耀二金碧一焉。

仰　冀

大檀那綱廣尊君馮二此善利一

福壽山海深國家地久天長

銘　曰

五大寶塔　顯レ實　開レ權　放二光　感　瑞一

照未分先　育王誓願　遮民主詮
虛空涌出　隆地現焉　莊嚴七寶
充塞八挺　聚沙戲作　塗泥雕鐫
朱甍耀地　輪相柱天　玉幡紛亂
金玲琅然　靈鰻來護　群雁隨緣
瞻禮窒堵　離脫蓋纏　都石有爛
層闕無傾　專祈武運　更期神仙

維時

萬治第四龍舍辛丑仲春如意珠日

大檀那松平氏大膳大夫從四位下兼行大江綱廣朝臣

防長當執權職　榎本遠江權守藤原就時

重修奉行　作間新五左衛門尉就連

下奉行　堀作左衛門尉

鑄物師檢使　原田太郎左衛門尉

大工棟梁　古屋七左衛門尉

檜皮葺棟梁　河井壹岐

冶工　長州住郡司讃岐信久二男

郡司木工丞信清

大宋佛鑑十六世前住建長惟天叟正幸謹書

防州吉敷郡上方山香積寺寶塔

大壇那平城天皇後裔毛利華冑松平大膳大夫從四位下兼行侍從防長二洲太守大江綱廣尊

君

共願

興復舊基重增舍利之光輝浮圖滿願一新大敎再現如來之多寶相好端嚴

仰　冀

皇風永扇台星正照天清地寧シ　時淳國泰百穀秋成四民日樂　專祈

大壇那大江綱廣尊君

壽域有ニ永吉運一加監千年膠固仍孫益隆盛栽レ塔善果塞レ岳塡レ溝

防長當執權職　榎本遠江權守藤原就時

重修奉行　作間新五左衛門尉就連

下奉行　堀　佐左衛門尉

大工棟梁　古屋　七左衛門尉

萬治第四龍舍辛巳仲春如意珠日

大宋佛鑑十六世住建長惟天叟正幸謹書

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

防州吉敷郡山口上方山香積禪寺重修塔記

石屏之高蹤只餘ニ一淨圍一而廢壞甚矣、頃者當路大臣不レ忘ニ靈山之遺託一欽頒ニ邦君之德意一命加ニ修治一於レ是乎草刈氏某率ニ參佐泊衆工一ニ至ニ乎塔下一稽度已備乃窺ニ農之時一募ニ竹干鄉黨一斬ニ木於山澤一迺運焉迺機焉吏勤工逸踰レ月而事遂是知淨圖之炳靈弘範ニ三界一其跡皆足ニ以補ニ於治化一故修葺又不レ容レ弗レ愼也、今凶虛欺詐之輩瞻レ之仰レ之則憶ニ念因果輪廻之說一格レ非遷レ善中心悅而誠服也苟能言レ之不レ待ニ縲絏之囚一而昏嚚之俗淳矣不レ假ニ斧讚之威一而淸靜之化成矣抑氏所謂陰翊ニ王度一者是已呼小信根人不レ深ニ德之返一云無レ盛ニ於國家一蓋又未ニ之思一耳因讚ニ斯懿德一得其共知ニ我法汎愛レ衆之意一

專　祈

大壇越松平氏從四位下兼行待從長門守大江朝臣吉就賢明府

伏　冀

鬱乎舊邦重ニ西伯至治之澤一

俊材竝馳永失金湯在レ德

次惟

巋然寶塔施及慈民下生之時者老間出於赫鐘鼓爲群

闔國當路大巨毛利市正就正

山口都總管　草苅六左衞門尉繼之

修造幹事　林平右衞門尉

大工棟梁　古屋七左衞門尉

檜皮師棟梁　河井治右衞門尉

維時貞享二歲在乙巳季秋穀旦

常榮住山前眞如沙門文慶靈訥拜書

寶塔重修之記

竊惟五大寶塔者昔成盛見公一團之孝心我國君累代兩回修繕不寮不崩蠱漠而無緇無意一瞻一禮永離三途心心遊法身堅固土見聞巨益何尠少哉予現在之後又修葺時

到欽聞于國衙忽命有司自春祖秋葺繕告竣前來兩回之修復有其記錄今又不記則後來修復之日受失記之責必也。故潛記年月備將來之考勘於戲大內之武運終呂翁之殺奪天又假乎大江之忠感麼其賊徒誠所謂不容奸也、寶塔一成之後三回成葺繕却後回々全繕及百千回大江之恩澤直到彌勒華之日懿哉儻哉如瑠璃古殿一新國衙寬仁大慶之德於法幢策勳於無窺僧侶積德於覺域恩海浩渺威雄凜例子枝孫葉有賢有聖質四海於候劒亦指乎掌而已落慶之日快共嵩祝高唱萬々歲

敬祈

大壇越平民部大輔從四位下兼行待從防長兩州大守大江吉元尊君

回此善勳　永延國祈

壽山高聳　成扶桑之重鎭

福海席涵　布恩澤於荒服

子枝齊八千椿

孫葉加二海屋籌一

穀登民庶　杆レ野共歡二大有年一

兵消國運　礪レ山長二聽呼聲一

當職　浦圖書

山口縣令　桂能登廣保

普請奉行　飯田六郎兵衛

大工棟梁　能野孫右衛門

檜皮師棟梁　高原傳左衛門

高山忠兵衛

享保二丁酉萬年萬々年

七月吉祥吉

前永平瑠璃光現住癡樂宋愚謹識

以上享保十年乙巳歲八月吉日

瑠璃光寺　月心書上

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

御願申上候事

此度天花香積寺萩表へ御引移相成儀に付五重之塔之儀は大内義弘公の御墓所之印と申傳承候間右塔之儀は其後御殘被下山口町觸次中より申出候條宜敷御聞召被分御渡可被下候以上

元和貳辰六月

町奉行様

願之通り可差置候事

御取次役

山口町官中

七月二日

榎本中務大輔

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

今八幡棟札序贊

神之事不レ可レ緩者聖經賢傳之中粲然可レ見者甚多庸レ詎效二饒舌一哉此斯防州山口之靈宮本是貞觀元年造二宇佐八幡行宮於山口郷内絲米一拜迎而祭號曰二今八幡一又曰二朝倉八幡一依三山口舊號二朝倉市一也爾以往歷二數百年一大内政弘公遷二宮同郷内野田一去ルヿ二絲米一二百步許卜二宅山下一斯地因レ當二城之玄武一名二此山一曰二龜山一連二龜山一有二七嶺一感似二龜山尾一是以俗稱二七尾一蓋以二九溪相似一曰二九疑一之意歟自二政弘一至レ今二百餘年之間崇敬祭禮曾無二間斷一今秋　大守君降二改作之命一士民或勞レ心或勞レ力而寶殿拜殿樓門左右回廊及廊下神樂所御供所祈禱所左右客人社十王社辨才天寶殿拜殿荒神社鐘樓靈廐事遂功顯擧欣々然有二喜色一而相告而上達此時執政將ツタヘテレ命屬二此頌一文才雖レ不レ相當不レ屬則簡也ヒロカニスル拜稽首以書頌曰

神之爲レ德　無臭無レ聲
微不レ可レ搏　夷而自明
譬如二初筮一　待レ告二事成一
速二於虛室一　打レ手響生
悠也久也　從レ古無レ更
至哉大哉　利レ物不レ盈
和レ光同レ塵　勿レ怠豈輕
常在二左右一　能鑑二淫貞一
尊信拔レ華　陰隲降レ禎
路兮何在　職由二至誠一

從四位下兼行侍從大膳大夫大江綱廣朝臣

町奉行　兼常喜兵衛尉

仏　官　佐村長右衛門尉
造立奉行　三輪伊兵衛尉
大　工　古屋理兵衛尉

大宮司正六位下左兵衛尉佐伯定次

于時寛文八年戊申八月十二日　神光寺住阿闍梨宥雅

處々軒　位々木道安謹誌焉

因に今八幡棟札序賛は露盤銘とは關係なきものなるが筆の序に記るす。

建築二十講　終

大正拾貳年五月十日印刷
大正拾貳年五月廿日發行

建築二十講
定價金參圓

著者　大熊喜邦
發行者　東京市日本橋區檜物町七番地　鈴木せい
印刷者　東京市芝區愛宕町三ノ二　村橋圭二
印刷所　東京市芝區愛宕町三ノ二　東洋印刷株式會社

不許複製

發行所　東京市日本橋區檜物町七番地　振替口座東京二一、二二七番　電話本局二、一六五番　鈴木書店

賣捌（東京）東京堂、東海堂、北隆館、至誠堂、上田屋、丸善、六合館、明文館、大阪屋、須原屋（大阪）盛文館、金正堂

著者著書目錄

趣味の建築講話 既刊 東京日本橋檜物町 鈴木書店發行

古今住宅の研究、江戸建築研究を主として建築に關する趣味的の講話を網羅せる論文集、

鐔百姿 既刊 同所 鈴木書店發行

意匠圖案を以て優れたる鐔百枚を蒐め全部コロタイプ刷としこれに解説を加へたるものにして圖案家の好侶伴たる珍書。

建築二十講 新刊 同所 鈴木書店發行

趣味の建築講話の姉妹編にして古今住宅研究並に江戸研究の粹を蒐めたるもの著者の心血を注ぎたる趣味多き論文集。

世界の議事堂 既刊 牛込市ヶ谷々町 洪洋社發行

世界各國の議事堂に就き多數の圖面を以て詳細に論究したるもの、劇場、演藝場、公會堂、府縣會議事堂計畫の資料として比類なき好著。

臺所、浴室、便所の研究 近刊 東京日本橋檜物町 鈴木書店發行

臺所、浴室及便所の研究は現代住宅に於ける文化的施設として最も重視せらるゝもの、著者不斷の研究を露吐し縱横に論破したる良書。

F2M16

終